

私は前職で航空自衛隊の回転翼航空機（ヘリコプター等）の操縦士をしていた。そういつた経歴からか、よく「飛行機とかへりってどうやって飛んでいるの？」と質問を受ける。もちろん、専門的に話すこともできるが長く退屈になりがち。よって、私は決まって「気合と根性で飛んでいる」と答えるようにしている。

大概の人はけげんな顔をするが、これはあながち間違いない。現代の空

を飛ぶ多くのものは、翼を高速で動かすことで表面の空気流に速度差をつくり、そこに生じる圧力差等（揚力と呼ばれる上向きの力）を利用し、翼を持ち上げて飛行状態を維持している。これをとても私なりに（乱暴に）要約する

と、翼が落ちないように、空気がふん！」「おりやー」と支えているという表現になる。そしてその翼は、

が、安心してほしい（？）。彼（彼女）らは気合と根性の化身である。なぜなら、操縦士が一人前になる

までに立ちほだかる幾多の壁を突破するには気合と根性が不可欠だからだ。その証拠に、日本は戦後の長年の研究の結果として、操縦士に最も必要なものは、航空力学や機体構造学などの学術知識よりも「気合と根性」を挙げている。

これは国家の操縦士養成専門機関である自衛隊の航空学生という課程でも垣間見える。航空学生の日々についてはYouTubeで「航空学生」と検索してほ



畠田 英輝



燃料や電気を使いエンジンが「ていやー」「おんらー」と動かししている。お気づきだろうか、これらは気合と根性以外のなものでもない。

さらに航空機の操縦士は一見、根性論とは無縁な印象。だ

まですに立ちほだかる幾多の壁を突破するには気合と根性が不可欠だからだ。その証拠に、日本は戦後の長年の研究の結果として、操縦士に最も必要なものは、航空力学や機体構造学などの学術知識よりも「気合と根性」を挙げている。

これは国家の操縦士養成専門機関である自衛隊の航空学生という課程でも垣間見える。航空学生の日々についてはYouTubeで「航空学生」と検索してほ

しい（実は私も映っている）。東京五輪でも活躍したブルーインパルスをはじめ、空自操縦士の約6割が航空学生の出身者。そんな名門で学生の魂に刻み込まれる「気精神」と呼ばれるものが「やる気、元氣、負けん気」だ。もうこれ以上の解説はやばだろう。

ここまで読まれた皆さんに私から改めて質問させてほしい。「飛行機とかへりってどうやって飛んでいるの？」

（南電工専務取締役）